

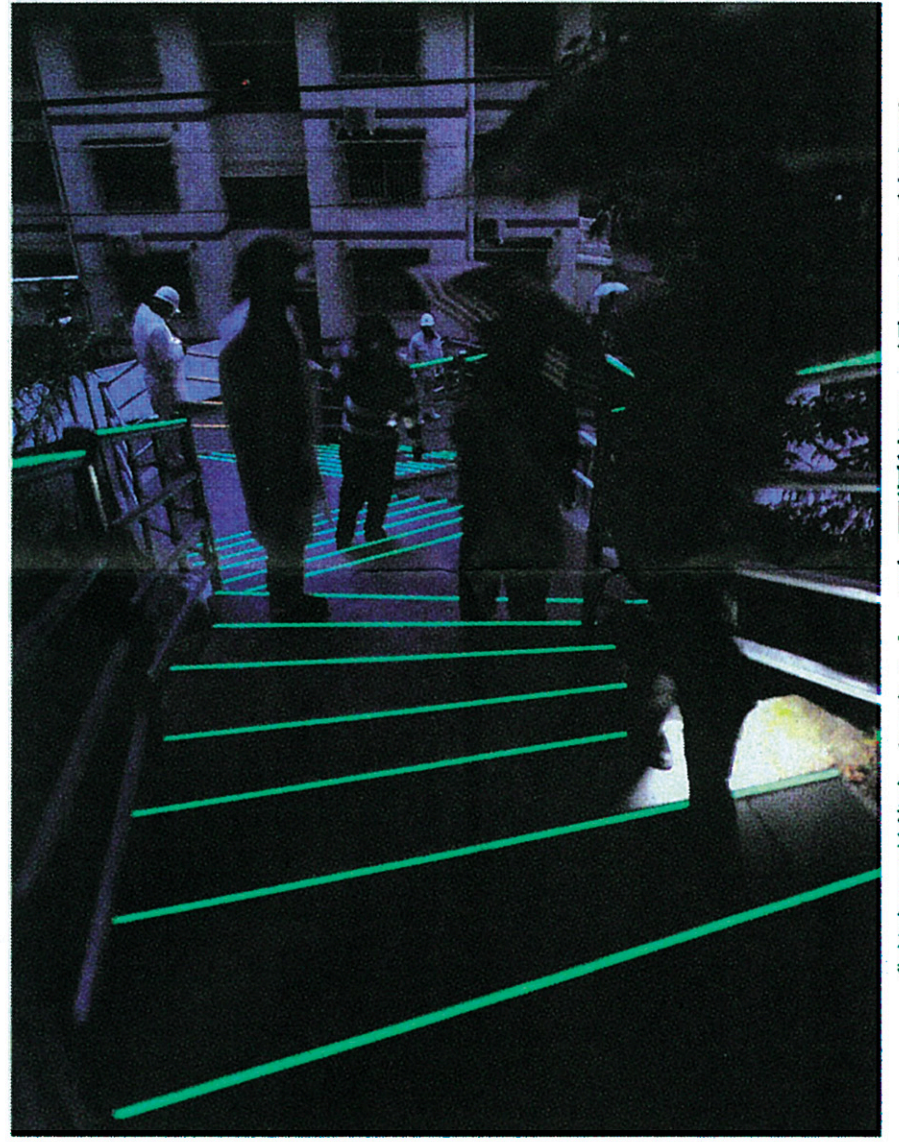
「蓄光材」が避難誘導

黒潮町賀津波想定し夜間実験

【幡多】夜間の津波襲来を想定し、日中ため込んだ光で発光する高性能の「蓄光材」を使った避難誘導実験

が20日夜、県内で初めて幡多郡黒潮町佐賀で行われた。住民約100人が参加し、暗闇の中に浮かび上がった階段を上り、高台へ避難した。実験は、土木学会で災害時の避難誘導を研究する小委員会などが町に打診し実施。最大約20分の津波高が予測されている明神地区で、地震による停電を想定し、街路灯を全て消して行われた。

集落から避難階段の上り口までは、約100分の路上に25分間隔で蓄光案内板を設置。海拔約21分の高台へつながる53分の階段は、手すりや階段の角、段差部分に蓄光材を施したゾ



蓄光材の光を頼りに避難階段を上る住民(黒潮町佐賀)

ーン▽手すりだけに蓄光材がないゾーン▽蓄光材が全くないゾーンに3分割した。

住民は、各ゾーンの上がりやすさなどを確かめながら高台に移動。地元の吉田純子さん(73)は「予想より明るくて驚いた。(蓄光材は)多いほど見やすい」と指摘していた。

使用した蓄光材は10年以上の耐久性があり、日没後も12時間以上一定の輝度を保つという。町情報防災課は「ソーラー蓄電池の照明と違い、故障しないメリットは大きい。導入できるかどうか検討したい」としている。

(新田祐也)